

根岸三荒神

根岸地区には「根岸三荒神」と呼ばれる三つの神社があります。

御霊神社

由緒 高皇産霊神(たかみむすびのかみ)

ごりようじんじゃ
千葉県館山市船形一番地

街道沿いの集落を守護する神として祭つたものと思われまふ。この神社から船形が発展していったものと言えまふ。



大六天神社

由緒 牛頭天王(ごずてんのう)

だいろくてんじんじゃ
千葉県館山市船形一四四番地

元禄大地震以前は、入江であり漁師たちの守護神として祀られたものと思われまふ。



竈神社

由緒 奥津彦之命(おきつひこのみこと)

かまごじんじゃ
千葉県館山市船形二九三番地

地元では、「さんこ様」と言われる荒神様です。



地域の自慢

館山市船形の東に位置する根岸地区には、中世から南北に縦貫する古道が残っています。木の根街道(大街道)とも言われ、頼朝伝説、里見忠義の大名行列、坂東三十三観音結願那古観音への巡礼道、小林一茶や広重など多くの人々が行き来しました。

祭半纏は、模様の変遷があり現在四代目になります。背中の桜は青年団の紋章であり、歴代の青年団長を中心に祭礼を取り仕切り、若い衆はもちろん、壮年会や子供会が一丸となって連綿と祭を継承しています。

船形諏訪神社の例大祭

祭礼日 七月第四土曜日・日曜日

船形地区の総氏神様である諏訪神社の例大祭には、根岸、堂の下、浜三町、大塚、柳塚、川名の六地区から屋台、山車、お船が出祭します。昔はよいまち、ほんまち、すぎまちの三日間

でしたが、現在はよいまちとほんまちの二日間だけになりました。祭りの見せ場は、浜出しの引きまわしで、山車や屋台の上では漁師まちの心意気を示す大漁旗が打ち振られます。

以前のお浜出は、砂

古老の話によると、祭礼当日になると、朝早くから漁師たちがごぞつて浜の砂を手にして竈神社から大六天神社、そして船形一番地の御霊神社を目指し大漁を祈願する行列が続いたそうです。その儀式を受け継ぎ、「潮こり」として竈神社と浜を三往復して砂を納めます。



四代引き継がれた祭礼半纏

浜まで降り、丸太でやぐらを組んで山車の前車輪部を持ち上げて引きまわし、その姿は勇壮かつ豪快で、担ぎ手、引き手、観客が一体となった感動の連続でした。担ぎ手も力が入り、組んだやぐらの丸太が折れることもしばしばだったそうです。しかし昭和五十二年以降は防波堤が建設されたため、昔ながらの六地区が競った砂浜に降りての浜出しができなくなり、寂しい限りです。「夜店(よみや)」は一日だけの小祭です。五月九日から七月九日までの二ヶ月の間に、各地区にある十一の神社ごとの祭が行われ、露店の出店もあります。

「どんど焼き」は、竈神社の火の神様に由来するとされ、毎年一月の第三日曜日に行われています。



根岸区屋台の勇壮な「お浜出」



船形祭礼の見せ場である「浜出し」の風景(昭和中期)

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献・史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましてはご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。